

| 令和6年第3回 区づくり推進横浜市議員会議（青葉区） 議事録 | |
|--------------------------------|--|
| 開催日時 | 令和6年9月6日（金） 午後3時40分～午後5時00分 |
| 場 所 | 青葉市役所4階会議室及びWeb会議 |
| 出席者 | <p>【座長】 山下正人議員</p> <p>【議員：6名】 田中ゆき議員、伊藤くみこ議員、横山正人議員、藤崎浩太郎議員、行田朝仁議員、おさかべさやか議員</p> <p>【説明局員：23名】（青葉区：23名）</p> <p>中島区長、真船副区長、青木福祉保健センター長、壺井福祉保健センター担当部長、綱河土木事務所長、宇多消防署長、ほか関係職員</p> |
| 次 第 | <p>議事</p> <p>1 「令和5年度 個性ある区づくり推進費 決算」について （資料1）</p> <p>2 「令和6年度 個性ある区づくり推進費 執行状況」について （資料2）</p> <p>3 「令和7年度 青葉区予算編成の基本的な考え方（案）」について （資料3）</p> |
| 発言の要旨 | <p>資料1、資料2及び資料3を真船副区長が説明。</p> <p>山下座長 ご説明ありがとうございます。それでは意見交換に入ります。なお、会議終了は17時の予定でございますので、先生方もおひとり約10分間でご配慮いただければと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。それではご質問ある方。行田先生。</p> <p>行田議員 現場といいますか、区民の皆さんからといいますか、いろいろご相談を受けることも含めて確認しておきたいことがあります。保育園の関係で、特に特別支援の加配の件で運営側が相当困っている話がありまして、ここ数年といいますか、だんだん増えているのですが、要は運営側にすると、認定のハードルを下げしてほしい、これに関する現場を持っている区役所の皆さんがどのように認識されているのか、その考え方をまず確認したいということがあります。必ずこうしてくれということではない一般の質問をしているのですが、まず認識を聞きたいと思います。実際、現場ではなかなか手帳まで至らないというか、保護者の要望だけど実際、人手が足りなくてぐるぐる回っている状態で、先生方がばたばたしている。実際頂いている声として、不適切保育の対応のためにカメラをつけているけれども、その映像で映像診断してくれないとか、また、区役所が出している受給者証で加配してくれないとか、そういう話が来ています。一方で、横浜市立保育所の保育士、実際に現場を持っていて現場からの声を直接聞いている区役所はどういう認識でいるのかお聞きしたい。</p> <p>佐藤学校連 学校連携・こども担当課長の佐藤です。ご質問ありがとうございます</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| | <p>携・こども担当課長</p> <p>す。青葉区もちろん、保護者さんがお子さんの特性が障害に当たるということを受け入れられなくて、申請されないままに入所されるという実態はあります。ただ、青葉区の中では、園のほうで対応を重ねて、最終的には、保護者の方、お医者様、園からの書類の3点を揃えていただくことで、遡って加配の認定ができますので、それで手続はほぼできている状況にあります。</p> <p>ただ、どうしてもというところでありまして、区役所の保健師が見ていて、やはりこれは加配が必要であろうということであれば、一番手厚いのが1対1、それから2対1、3対1という形ですが、個別支援ということで3対1を区の中で検討してつけているという実態がございます。</p> |
| <p>行田議員</p> | <p>やっただけいてるのはよく分かりました。いろいろなケースがあると思いますが、局のほうともよく相談しながら、いい形を検討していただければと思っています。もちろんそのご家族もそうですし、周りの人もいろいろあると思いますので。保育園の関係で多く頂いているのは、実は入所決定の話で、皆さんに頑張ってもらって、別に横浜市が悪いとかそういったことは一切ないのですが、第1希望の3月末最後の1週間とか入所を辞退するケースが出てきて、それで園のほうは、やはり先生方がいろいろ準備されているわけです。だけど、4月、5月は空いてしまったみたいなケースが経験上あったというところで、青葉区の例えば今年の状況はどうでしょうか。</p> |
| <p>佐藤学校連携・こども担当課長</p> | <p>ご質問ありがとうございます。令和6年4月の入所に向けてというところの青葉区の実態ですが、実際には私たちも二次調整の発送が終わって、それが3月8日なのですが、その後、辞退で空いてしまったところについては、三次調整ということで繰上げの個別のご連絡はさせていただいています。結果的には、14名の方にご連絡して9名の方が入所したということになっております。ただ、やはり3月後半になって繰り上げ入所ご連絡をさしあげても、もう育児休業を延ばしてしまったとか、ほかの施設に決めてしまったとか、そういう実態は確かにあります。</p> <p>そして、日時調整の発送のタイミングが3月4日で、そこ以降はどうしても手続的に5月以降の空き枠に回すような形になってしまっているのが実際なのですが、そこの3月8日以降でお引越しをやめたとか、急な転勤があったとか、違う施設を利用するとかで辞退された方の実人数としては45名という形になっております。</p> |
| <p>行田議員</p> | <p>ありがとうございます。それも局と相談しながら、3月末の連絡する体制であるとか、できるだけ埋めていくようなご尽力をいただきたいなと思います。</p> |

| | |
|-------------|--|
| | <p>変わりました、認知症の関係で、これも皆さんの認識を伺いたいのですが、今、認知症サポーターに頑張ってもらっている方がいるのですが、なかなか活躍の場がないということがあります。もちろんケアプラザの皆さんに頑張ってもらっているところがあると思いますが、例えばこの間、議会のほうから要望して実現したのは、例えば今、桂台かな、栄区のほうでスローショッピングが始まったのですが、そこではボランティアさんが月1回、1時間とか2時間サポートするだけで、本人たちの気持ちも盛り上がるし、支えていただいた本人・家族もありがたいみたいな話もありまして。とにかくバランスをつくっていくことがこれから先、やはり大事なのかなと思うのですが、その辺は議論されたことはあるのですか。</p> |
| 岸田高齢・障害支援課長 | <p>高齢・障害支援課長の岸田でございます。ご質問ありがとうございます。認知症サポーターに関しましては、認知症について正しくご理解いただいて、ご本人やご家族を温かく見守っていただける応援者ということで、ぜひモチベーション高く活動していただきたいと考えております。先生のご指摘にありましたスローショッピングにつきましては、高齢者の中でも認知症の方やフレイルの方の利用が見込まれるということから、認知症サポーターの方の活躍の場としては親和性の高いものと考えております。今後に向けて、区内の数か所の地域包括支援センターでは、エリア内のスーパーにおけるスローショッピングの実施を検討しているとも聞いております。ですから、そういったところでの活躍の場の橋渡しですとか、そのほか認知症サポーターの方がどのような活動を希望されているのかというところを、例えば養成講座の機会などでアンケートを取るとか、そういった行いたい活動なども把握しながら、それが実現できるような橋渡しをしていきたいと考えております。</p> |
| 行田議員 | <p>最後に、認知症の方の居場所の話ですが、これは本当に家族会の方とか、利用関係者もそうですし、訪問をやっている人とか、いろいろ伺うのですが、カフェはカフェで、カフェに行くとき自己紹介しなくてはいけないとか、いろいろな課題があったりして。そうではなくて、本当に気軽に行ける日中の居場所というの、現場ではいろいろな話が出ているのですが、区役所のほうではどういう認識でいらっしゃるのか、聞きたいと思います。いろいろな声が上がっていると思いますが。</p> |
| 岸田高齢・障害支援課長 | <p>いろいろなご希望があるというのは認識しておりますが、どのようにすれば認知症のご本人のご希望ですとか、やりたいことに合った居場所が実現できるかというのは、すぐに具体案としてお示しできないところではございます。ただ、先ほどお話があった認知症カフェの敷</p> |

| | |
|--------------|--|
| | <p>居の高さという部分で、それぞれ運営主体によって、いろいろな内容や雰囲気の違いがあると聞いておりますが、そこがどうにか縮められないかというところも模索しつつ、今後に向けては、7年度にチームオレンジが全地域ケアプラザで展開する予定でもありますので、そういった中でいろいろ知恵を出し合いながら検討していきたいと考えております。</p> |
| 行田議員 | <p>ありがとうございました。今日も皆さんとしっかり議論させていただきたいと思っておりますので、安心できる区政をお願いしたいと思っております。以上です。</p> |
| 山下座長 横山議員 | <p>ありがとうございました。横山議員。 まず、資料1-43、あおば地域サポート事業について伺います。執行率が14%というのは極めて低いのですが、詳しく内容を教えていただけますか。</p> |
| 松本地域振興 課長 | <p>ご質問ありがとうございます。地域振興課長の松本です。こちらのあおば地域サポート事業ですが、まず、この青葉未来づくり大学校につきましては、一部を局予算から区配して実施していただき、残が生じました。そのほか、あおばスタート補助金についてですが、実は令和4年度に申請が全くなかったということで、5年度に補助金額を引き下げたのですが、条件をちょっと緩和しました。そのときに、交付件数は2件にはなってご申請いただいたのですが、やはり残念ながら金額があまりいかに190万円ほど残ってしまって、今回のこの残が非常に多く出てしまったというところになっております。</p> |
| 横山議員 | <p>局予算が入ったということは、本来、区づくりで予算立てしていたけれども、局予算が入ったのでそれが不要になったという理解でいいわけですか。</p> |
| 松本地域振興 課長 | <p>はい。区づくりも一部充ててはいるのですが、予算編成の段階では区配があるかどうか分からなかったもので、区づくりのほうで計上していたというところなんです。</p> |
| 横山議員 | <p>あと、あおばスタート補助金なのですが、これはそもそも需要がなかったということですか。それとも、地域課題がそれほどなかったのか、補助金の使い勝手が悪かったのか。</p> |
| 松本地域振興 課長 | <p>引き続き松本がお答えさせていただきます。相談という形では8件ほどあったと伺っております。ただ、実行に至らなかったということで、これは補助金ですので審査会を経てではあるのですが、申請いただいた2件で総額32万円ほどの執行で終わってしまったと聞いております。ただ、今年度も引き続きスタート補助金については実施しております。現段階で相談件数は、既に昨年の8件を超えて10件を超えておりますので、引き続き皆様にご利用しやすいように支援しながら</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>お使いいただければと考えています。</p> <p>横山議員 どこが交付に至らなかった原因なのですか。手続きが煩わしいとか、そういうことではないのですか。</p> <p>松本地域振興課長 煩わしいというよりは、スタート補助金については必ず、こういうことを考えているという時点で窓口に来ていただいてお話をしますが、例えば補助金の中で食料費とかそういったものには使えないとか、もう少し地域を巻き込んでやっていただきたいとか、提案の段階でここをもう少し踏み込んでほしいというようなところで、諦められたということもあると伺っています。</p> <p>横山議員 次に自治会町内会の支援事業ですが、資料2-20です。このDX講習会の内容について伺いたいと思います。自治会町内会の事務作業を見ると非常にアナログで、もう少しDX化が進めば省力化につながるのではないかと思うことが多いです。例えば回覧板なんかが一番の例で、今、回覧板を物理的に1軒ずつ回していくという発想自体が、青葉区民のクエスチョンが多いのではないかと思います。ここでは具体的にどのような内容について講習会を開いているのですか。</p> <p>松本地域振興課長 ご質問ありがとうございます。引き続き地域振興課の松本から答えさせていただきます。こちらの自治会向けの研修は7月15日に行ったのですが、内容としては、LINEやインスタグラム、Xですとか、ホームページ、Zoomとかそういったものを含めて、こういうツールを使うとこういうことができる、ただ、反面こんなデメリットがあるというようなお話を、実際に自治会町内会でそういったことをやっている講師の方をお呼びしてお話ししました。参加人数は21名ということで、これにプラスして、その後、実際に自治会町内会で導入したい、こういうものに使えないかというようなご相談を受けて、アドバイザー派遣もできるということでお話ししました。まだご相談のみで、実際にアドバイザーを派遣しているということはないのですが、自治会町内会でまずLINEグループを作ってみたり、先生のおっしゃられた掲示板や回覧板でそういったのができないかというところにつながればいいのですが、まだ実現には至っていない状況でございます。</p> <p>横山議員 今までやっていたことを大きく変えようとなるとなかなかハードルが高いのですが、例えばモデル自治会のようなものを選定して、見渡してここは結構DX化が進んでいるとか、そういう意欲のある人が多く住んでいるなという地域を選んで少し予算を立てて、モデルでこういうことができますよということをやってみたらいいのではないかと思います。そこでいろいろなことに自治会が取り組んでいけば、この部分はうちの自治会でもやれるとか、あるいは会費徴収についてもクレジットカードで集めることができるようにすれば、いちいち</p> |
|--|---|

回って自治会町内会費を集める必要はないとか、モデルがあるところの部分はやれるのではないかというふうになってくると思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

次に、資料2-32の区民サービス向上のところですが、最近、私は青葉区役所の戸籍や保険年金の窓口を使うことがありまして、実際の自分の体験から申し上げるのですが、窓口の対応は非常によく、来訪者、来街者中心の立場に立って窓口をやってくれていると思います。ただ、私が見ている、もう少し省力化ができるのではないかと、いわゆるDX化ができるのではないかと思うところがあったのでお伝えしたいと思います。今、区役所DX化で西区と港南区がモデル区になっていますが、それ以外の区でも、予算がつかなければできないということもあるかもしれませんが、デジタル統括本部に対して、こういうことをやっていけるのではないかというのはどんどん出していくべきではないかと思っています。

その一つが、書かない区役所。私は去年、北海道の北見市役所に視察に行きましたが、書類は書きません。窓口で対応した職員がお話を聞いた上で、必要な書類をプリントアウトして、それをお渡しして手続を取ってもらうということです。あるいは、プリントすらしない。要は窓口の職員がネット上で処理をして、お客様はお帰りいただくというようなことを実際にやっています。それをやろうとすると、来街者の多い青葉区役所は多分無理だと思いますので、一番いい省力化というのは、市民の皆さんに書かせないのが手っ取り早い方法ではないかと思っています。

ですので、例えば窓口に来られた方に、今日は何のためにおいでですかということを伺って、その窓口で必要な事項について伺った上でプリントアウトして書類をお渡しする。それを窓口で市民が持っていく。それで手続を完了させる。こういったことが省力化につながっていくし、できれば区役所に来る前に、市民の方がご自宅でスマートフォンやパソコンを使って必要なことを記入して、その記入したものがQRコードで出てきて、そのQRコードを区役所に持ってきてピッとやればプリンターから出てくるとか、そういったことができるのではないかと。そういうふうにしていくと、より便利な機能になっていくのではないかと思うし、もっと進めば、自宅にいながらにして様々なことができる、マイナンバーカードを使ってやることができるというようなことを、区役所からデジタル統括本部にどんどん発信してもらいたいと思うのですが、いかがですか。

中島区長

ありがとうございます。おっしゃること、本当にごもっともだと思っております。今、西区や港南区で取り組んでいる書かない窓口は、

| | |
|----------------|---|
| | <p>氏名や住所だけなのですが、マイナンバーカードから申請書類に取り込むもので、デジタル統括本部も18区に広げようと、今いろいろと検討しているところです。そこは第1弾として、今後近いうちに実現できるかなと思っております。</p> <p>一方、例えば戸籍や保険年金などの申請は、戸籍、保険年金、介護保険もそうですが、局が持っているシステムの中で処理しているので、そちらの改修が必要ですが、こちらは全国の基幹システムの共通化を待たないと取りかかれないということで、局も分かっているのですが取りかかれずに苦悩していると私どもも聞いております。ただ、その中で、現場ではここができると市民の方がすごく使いやすくなるということは、現場の目線で局にどんどん上げていきたいと思っております。</p> <p>D X化は既成の概念にとらわれていたら新しいことはできないので、これは多分無理だろうなと思ったとしても、区役所からデジタル統括本部に上げるということが大切だと思うのです。それを受けたデジタル統括本部がどう判断するかということになってくると思いますので、ぜひ現場の声を徹底的に上げていただきたいと思っております。</p> <p>最後に谷本公園の進捗について伺います。</p> |
| 横山議員 | <p>ご質問ありがとうございます。まちづくり担当井波と申します。谷本公園ですが、前回ご報告したところから新たな取得はまだできておりませんので、6年3月2日が最後の取得で、残りが0.4ヘクタールの9筆となっております。</p> |
| 井波区政推進課担当課長 | <p>引き続きよろしく申し上げます。</p> |
| 横山議員 | <p>続きます、おさかべさん。</p> |
| 山下座長 | <p>ご説明ありがとうございます。先ほど行田先生から内定辞退の件が出たので、その件について私からご質問させてください。内定辞退の件に関して、横浜市の当局と何回かやり取りさせていただきました。昨年の辞退者が横浜市全体で1262人いて、第1希望の辞退が46.8%と、1区でおよそ70人ぐらいなのですが、先ほど45人ということだったので、平均よりは少ないのかなと思いますが、その認識でよろしいでしょうか。</p> |
| 佐藤学校連携・子ども担当課長 | <p>ありがとうございます。やはり結構な数があるなと思ひまして、来るとして待っている保育所に対してかなりしわ寄せが行ってしまうので何とかしたいと思ひているのですが、相模原市や大和市はペナル</p> |
| おさかべ議員 | |

| | |
|--|---|
| | <p>ティーを設けたりしています。これが果たして横浜市で効果的かというのはい分らないですし、まずは内定辞退の内訳を調査していこうかというふうにはなっています。取下げは区役所に提出するかと思いますが、区役所では窓口で受け取るときに、どういう理由かとか尋ねたりしているのでしょうか。</p> <p>佐藤学校連携・子ども担当課長 辞退するときの書類でチェックする項目があります。別の施設を利用しますとか、自宅で見ると、あるいは育児休業を取るため、あとは転居という形で、チェックするところでそういう仕分けは一通りできます。その他というところでは、青葉区の特徴としては、川崎市と両方申請していて、川崎市のほうが希望で、そちらが決まったので辞退しますということがあります。</p> <p>おさかべ議員 なるほど。分かりました。ありがとうございます。結構、内訳を見てくださっていることに感謝申し上げます。なるべくそれを防ぎたいと思うのです。やはりミスマッチをどうやって防いでいくかというところがあると思うのです。旭区の区役所で幼稚園の施設の方々を招いて説明会をされていたりしました。もともと幼稚園の人たちを招いてやるつもりではなかったらしいのですが、声かけをしたら、やりたい、やりたいと来てくださったと。今、認定こども園、保育所、幼稚園とあって、保護者さんも一体何がどう違うのか分からなかったり、また、施設によっていろいろ特色があると思うのです。特に青葉区は、私もそうなのですが、最初は保育所に入れて、その後に認定こども園に入れて、途中で転園して、そのことは非常に申し訳なかったなと今でも思っているのですが、こういうミスマッチ者を最初からなくしていくというのも一つだと思いますので、ぜひそういった取組を検討いただければと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>佐藤学校連携・子ども担当課長 ありがとうございます。広報よこはまなどでも預け先はいろいろありますよということでやっていますし、私どものインスタグラムの中で「はじめての保活」ということでご紹介させていただいているところですが、引き続き一人ひとりの保護者様に届くようにやっていきたいと思っています。</p> <p>おさかべ議員 最後に、利用調整に育休延長のチェック、あれで育休延長の人は省けるはずなのですが、あの申請書自体を出せという会社もあるらしくて、育休延長して会社にそれがばれてしまうとまずいから、あそこをチェックしないで落ちるというやり方をする人たちもいるそうです。ですから、そのあたりも目を配っていただいて、何とか調整していただければと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>山下座長 藤崎議員。 藤崎議員 ありがとうございます。よくある質問から入りますと、区予算と</p> |
|--|---|

| | |
|-------|--|
| | <p>かで局予算化されたり何なりで結構余ったということで、530万円ぐらい自主企画事業費が浮いた状態にあったと。最終的には施設のほうに転用されて、それ自体はそれでいいと思いますが、せっかくの自主企画事業という青葉区独自の事業ができる予算が530万円余って、それが設備に行ってしまうのはちょっともったいないような気がします。この話はよく出る話ですが、何か工夫できたりとか、先ほどの補助金は逆に申請が少なくてスタート補助が余ってしまったとありましたが、年度途中でうまく地域の方の活動を支援する補助金を創設したり何なりして転用したりできないのかなとこの決算で感じるのですが、区長の考えを教えてください。</p> |
| 中島区長 | <p>ありがとうございます。おっしゃるとおりで自主企画事業は区でかなりの自主性を持ってできるので、なるべく使えるものは使いたいし、当初の予算になくてもその時々ニーズに応じて新しいことは予算外でもやっていきたいと思っております。これからも区づくりの自主企画でしっかりと取り組んで、区民のために税金が還元できるように考えてまいりたいと思っております。</p> |
| 藤崎議員 | <p>ありがとうございます。我々も、勝手に7人一緒くたにはしてはいけません、必要なものが途中でつくられて、それが区民に還元されるようであれば皆さん多分ご理解はされると思いますので、ぜひ工夫していただければと思います。</p> |
| | <p>あと、細かいことを先にやると、今回の決算資料を改めて見て、いろいろな冊子の発行部数と表現されたところと、配布部数と表現されたところがあって、例えば1-48は同じページに2つ書いてあるので分かりやすいのですが、ガイドマップ作成は1万部発行で、転入者向け情報提供云々は5185部配布となっています。ほかにも配布のところがあったり、発行だったり、印刷と書かれているところもあって、この辺はどこまで配布が管理できるのか分かりませんが、先ほど紙の資料のコストカットという工夫ができたことで予算を削減できたという話がありましたが、発行ベースなのか配布ベースなのかをよく管理していただくことが重要なのではないかと思います。この発行部数と配布部数という表現は、どういう意図で決算書類上分かれているのか。何か考え方があるのか、単純に部署ごとで違うのか、分かれば教えてください。</p> |
| 真船副区長 | <p>ご指摘ありがとうございます。課ごとの考え方で書いているかと思えます。先生のご指摘もとてもですし、今後、言葉の使い方をちゃんと統一した上で、不要なものをつくらないなど統一させていただきたいと思えます。</p> |
| 藤崎議員 | <p>ありがとうございます。なぜかという、先ほど来DXの話もあり</p> |

ますが、どこまでかけてやるべきだったのか、例えば紙は5000だけどニーズがあるからデータではちゃんと用意しておくとか、いろいろ考え方があっていいじゃないですか。その辺を一定程度トータルで見ていると、コストと利便性というのがあるかなということでも伺いました。各課で皆さん本当に大変な中、資料を配布数まで管理するのは結構大変だろうと思うのですが、その辺も工夫できるのであればしていただきたいと思った次第でございます。

決算のほうで、犯罪情報メールの交付が昨年の決算より微減しています。配信件数は増えているのですが、登録件数が微減ですね。昨年度の資料だと2653の登録……あ、違う、微増ですね。今年が2723人で、昨年の資料を見ると2653人で微増しています。犯罪発生に関するメールはニーズがあるかと思いますが、やはりSNS界隈で、例えば鴨志田緑小で何かあったじゃないですか。学校に入ってしまったのではないかと、保護者間で犯罪発生メールか何かのスクショがXやLINE、フェイスブックでさらされて、わーっと拡散することがあるのです。やはり犯罪発生情報のニーズが結構あるだろうということ踏まえると、かつ、保護者系で学校系だと特に子供のことが心配なので、皆さん共有されるわけです。そういうところを捉えると、例えばAonicoとかパマトコとか、ああいう子育て系のアプリにおける犯罪発生情報の発信なんかも意外とニーズがあったりしないかと思ったのですが、そういうのは逆に情報が過多になるかなと思うこともあって、その辺は何か工夫できないかなと思っています。

松本地域振興
課長

地域振興課の松本です。まず、犯罪発生情報メールについては、ご評価いただきありがとうございます。こちらは警察から頂いた情報を流しているのですが、先生のおっしゃられた子育て世代に向けた情報の中に組み込めないかということで頂いたと思うのですが、今のところパマトコに関してはそういった犯罪情報を載せるということはお聞きしていません。ただ、やはり子育て世代が聞きたい情報というのは、何かしらの形でお出したほうがいいのかと思ひまして、関係局にもお話は共有させていただきます。

藤崎議員

ありがとうございます。最後にコメントだけ。要は、出どころやいつの情報か分からないものが出回るリスクを考えると、一定程度皆さんにちゃんとした情報が届いている状態のほうが安全な気がします。公式のメールを直で受けている人は自分で確認できますが、実は5年前の情報だったとか、それこそ震災のときもデマが流れたりしますが、そういう変な情報に惑わされるぐらいなら、ちゃんとした情報がより多く伝わるようにしておくほうが安全かなと。もし工夫の余地があれば工夫していただいて、難しければ難しいかなと思いますが、ご

| | |
|-------------|---|
| | <p>検討いただければと思います。以上です。ありがとうございました。</p> |
| 山下座長 | <p>ほかにありますか。田中議員。</p> |
| 田中議員 | <p>ご説明ありがとうございました。資料1-10と2-10にあるDV専門相談事業について、恐らく女性福祉相談を受けた方が多いと思いますが、男性はいらっしゃるのかどうか、教えていただけますか。</p> |
| 藤本こども家庭支援課長 | <p>こども家庭支援課長の藤本です。今現在、この弁護士相談については、特に男性からの相談は青葉区ではございません。</p> |
| 田中議員 | <p>男性がDVを受けて悩んでいるという認識というか、そういう可能性というのは考えていらっしゃいますか。</p> |
| 藤本こども家庭支援課長 | <p>はい。この弁護士相談についてはご利用なかったのですが、実際にご主人様がお見えになって相談するケースであるとか、電話相談なども受け付けておりますので、何件かそういうケースもございます。</p> |
| 田中議員 | <p>ありがとうございます。そもそもDVであることに男性も女性も気づかないで悩んで苦しんでいる方がいらっしゃると思いますが、広報などについてはどこかこの事業の中でやっていらっしゃるのですか。</p> |
| 藤本こども家庭支援課長 | <p>6月の時点で先生にご指摘いただきましたので、総務課と地域振興課で協力いたしまして、いろいろな施設にDVのカードをパウチして1枚貼っていただきたいということでご依頼申し上げて取り組んでいるところです。</p> |
| 田中議員 | <p>ありがとうございます。引き続きよろしく申し上げます。</p> <p>次に移らせていただきます。資料1-17の高齢者支援事業の「適切なサービス利用につなげます」というところですが、区の考えている適切なサービス利用というのはどのような考え方でしょうか。</p> |
| 岸田高齢・障害支援課長 | <p>適切などというのは、本当にお話を傾聴してというか、かなり抽象的な表現になってしまいますが、それぞれの方に合ったものということで、画一的にどこかを紹介するとかではなく、その方のバックグラウンドや家族関係といったものをしっかり聞き取った上でご案内していく、利用につなげていくというものでございます。</p> |
| 田中議員 | <p>ありがとうございます。今回、介護保険外サービスの周知というところでこのガイドを見たのですが、訪問理美容とか紙おむつの支給とか、あんしん電話、食事サービスというところで、現場はどちらかというと、適正なサービス利用の中にはシャドーワークといわれているような、受診の付添いに来てほしい、区役所の手続についてきてほしい、緊急訪問してほしいという中で、介護保険事業所の方とかケアマネさんが、ある面、言葉に出せないけれども裏方でやっているものが介護保険内のサービスではないということを知っていただくことも必要だと思います。その点について、厳しいとは思いますが、お考えはどうでしょうか。</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>岸田高齢・障害支援課長　　そうですね、なかなかそういったことを言っていたらいいような関係性を築けているかというところも振り返らなければならないとは思いますが、そういった声を拾っていけるようにコミュニケーションを図ってまいりたいというところがございます。</p> <p>田中議員　　ありがとうございます。すすき野でこれから国の事業と一緒にあって、身寄りなし問題とか、おひとり様のこういうシャドーワークも含めたところで検討していくと思いますので、共によりしくお願いしたいと思います。</p> <p>富澤総務課長　　最後に、地域防災拠点についてですが、山坂が多い地域だと、地域防災拠点になかなか行けない障害者の方やご高齢の方がいらっしゃると思いますが、例えば代替になるようなコミュニティハウスとか地区センターとか、そういう場所を候補として挙げていらっしゃるのでしょうか。</p> <p>田中議員　　ありがとうございます。今、補充的避難所とご答弁いただきましたけれども、今後は地域特性を考えて、ご高齢者が多くてそれこそ投票に行けないという声も時々、小中学校が山坂の多いところにあったりして、実質的に避難できない場所に避難所があってもなかなか難しいと思いますので、地域の実情に合った避難所の考え方というのも加えていっていただきたいと要望します。</p> <p>佐藤生活衛生課長　　もう一点だけ地域防災拠点のことで、ペットの同行避難ですが、随分とできるような支援をしているとは思いますが、拠点本部の考え方で同行避難を実施訓練しているとか、していないとかという状況で、まだ多分進んでいない状況だと思えます。青葉区内の昨年度の実績はどのような感じでしたか。</p> <p>田中議員　　ありがとうございます。実際に参加してみた方から、実のところ同行避難というのはもうしたくないという声も出ている中で、同室避難という考え方も出てきています。地域防災拠点では難しい話なのかもしれませんが、ぜひペットを飼っている皆さんに参加していただいて、その結果どうであったのかも振り返って、もし同室避難というこ</p> |
|--|--|

| | |
|-----------------|--|
| | <p>とも考える局面が来たときには、地域防災拠点だけではなくて、協力していただけるような民間だったり、そういうスペースを活用することも、先のことを見つめていただきたいと思います。これは要望です。以上です。</p> |
| 山下座長 | <p>よろしいですか。伊藤さん、どうぞ。</p> |
| 伊藤議員 | <p>ご説明ありがとうございます。私からは3点ほどお聞きしたいのですが、まず、資料2-36の農あるまちづくりの部分です。農業者の方と意見交換をされているいろいろ考えていらっしゃるということですが、どのようなことを目指して、どんな意見が出て、どんな方向性を考えていらっしゃるのかということをお伺いします。</p> |
| 井波区政推進課担当課長 | <p>ご質問ありがとうございます。区政推進課担当の井波でございます。農家の方との意見交換を昨年度からやっておりますが、いろいろお話を聞いていますと、農政部門もある中で区役所に対して期待することとしては、やはり田園都市として住宅と農地が近い中で、魅力としての地産地消だけではなく、農業をやっていく上での地域の課題のようなものについてもしっかり発信してほしいというお話を頂いております。</p> <p>それを受けまして、今年度はまず広報で年6回ほどコラムという形で、地産地消の魅力と併せて、例えば農薬のお話とかそういったものも含めた知識として、共生していく上での情報を載せた発信を行っています。もう一つは、身近に感じてもらうために、今年度ははま菜ちゃんコンテストで区長賞をつけさせていただいて、小学生の方にも農をよく知っていただくということだったり、学校の先生や食育の方々と学校で農の情報発信ができるようなコンテンツの整備をしたり、その場合は当然、農家の方のお話にあった、農業に関して魅力だけではなく、共生していく上での課題のようなものも一緒に伝えるなど、そういったことに取り組んでおります。</p> |
| 伊藤議員 | <p>ありがとうございます。せっかく青葉区は農業も多いので、しっかりとした情報発信をさらにもっと進めていただければと思います。</p> <p>次にお伺いしたいのは図書館のことなのですが、今回、読書習慣や本との関わりということを進めていく中で、全体の調査として市の中で5館ですか、山内図書館も調査対象になったと思いますが、どのようなことを調査され、こちらからどのような要望を出しているかということをお聞きしたいと思います。</p> |
| 佐藤 学校連携・こども担当課長 | <p>学校連携・こども担当課長の佐藤です。こちらは教育委員会事務局の事業になっていきますので、私どももどうなっているかと聞く立場ではないのですが、調査をして、今は取りまとめているところと聞いております。まだお伝えできることは何もないような形です。</p> |

| | |
|----------------|--|
| 伊藤議員 | 分かりました。まだ調査内容についても。 |
| 佐藤学校連携・こども担当課長 | 調査が終わって、それを集計して、これから外に出していく段階です。 |
| 伊藤議員 | 分かりました。では、それはまた後ほどということで。以上です。 |
| 山下座長 | よろしいですか。私から1点だけ。区づくりとは直接関係してこないのですが、今年の夏休みのキッズクラブで、昼飯にハーベストの飯を食わせろというのが出たじゃないですか。あれって、青葉区の利用状況というのは区のほうでつかんでいますか。 |
| 佐藤学校連携・こども担当課長 | 学校連携・こども担当課長の佐藤です。局から数字のほうは頂いております。全体的に市で区分2のお子さんの4割ぐらいが登録しており、青葉区は、延べ約11,000食の利用があったと聞いています。 |
| 山下座長 | それは多いほうなのですか。 |
| 佐藤学校連携・こども担当課長 | 昼食提供が可能な児童に対する割合としては、市の平均と同じぐらいです。 |
| 山下座長 | 1万食。 |
| 佐藤学校連携・こども担当課長 | 1万1000です。 |
| 山下座長 | 1万1000食。 |
| 佐藤学校連携・こども担当課長 | はい。 |
| 山下座長 | 本来は、キッズクラブごとに小ロットの弁当を頼めばいいだけだとすると、今、農業の話も出ましたけれども、本当であれば地産地消で地元の食材を使っただいて、地元の商店街を使っただいて、温かいものをお届けできるという距離感があることを考えると、地元の商店街に協力してもらうのが一番手っ取り早い話なのです。例えば食協とか料飲組合とか地元の商店街とか、何で地域のそういうのを使わないのかという声は、課長のところには届いていないですか。 |
| 佐藤学校連携・こども担当課長 | 個別には、そこまでの地産地消でやるべきというお声は、私のところには届いていないです。 |
| 山下座長 | そうですか。私のところにはいっぱい届いているのですが、これは本局のほうで話をしないといけないことだと思いますので、この程度にしておきます。 |
| 横山議員 | 今の件について。 |

| | |
|------|--|
| 山下座長 | よろしいですか。どうぞ。 |
| 横山議員 | ちょっと手短かに言います。これは1食当たり302円か出していて、これを一括して補助もので団体に出せばいいだけの話で、何もハーベストの飯を食わせる必要は、私は全くないと思います。 |
| 山下座長 | おっしゃるとおりです。それは多分、議事録に残っております。 他によろしいでしょうか。それでは、特にご発言もないようなので、本件についてはこの程度にとどめます。 |